

フランスにおける「民俗宗教」研究の 現状理解と日本民俗学への適用

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 工藤 紗貴子

共同研究者：中野 洋平、ハイエク・マティアス（ともに国際日本研究専攻）

フランスにおける「民俗宗教」研究の 現状理解と日本民俗学への適用

文化科学研究科・日本歴史研究専攻 工藤 紗貴子

共同研究者：中野 洋平、ハイエク・マティアス（ともに国際日本研究専攻）

目 的

未だ定義が明らかでない日本民俗学における「民俗宗教」論の構築を目指す
そのために、フランスにおける「民俗宗教」研究の経緯と現状を調査、その方法論を学ぶ

方 法

- 1・日本民俗学周辺およびフランスを中心としたヨーロッパにおける「民俗宗教」研究史の整理
- 2・各専攻の教員からの指導およびディスカッション
- 3・未邦訳資料の翻訳および講読と日本語での概括
- 4・日本の「民俗宗教」研究に対する国際的視座の共有
- 5・フィールドワークの共同実施

現 状

- 1・論文講読、研究史整理
 - 【講読】岩井洋「欧米における「民俗／民衆宗教」概念の諸相
—比較「民俗／民衆宗教」論に向けて—」（中野）
 - 【講読】P.L.バーガー『聖なる天蓋—神聖世界の社会学』（工藤）
 - 【発表】「日本における民俗宗教研究の学史的検討とその問題点」（中野）
 - 【発表】「日本民俗学における柳田の継承—新谷尚紀『柳田民俗学の継承と発展』（2005）から」見る
「民俗信仰」の研究史整理」（工藤）
 - 【発表】「翻訳テキストおよびブルターニュ地方の概要」（ハイエク）
- 2・各発表への指導、助言
- 3・翻訳テキストの決定 Y.Lambert. *Dieu change en Bretagne*, Paris:ed Cerf, 1985
- 4・学会での成果報告 2007年1月京都民俗学会
- 5・フィールドワーク先の決定 10月後半、青森県下北半島

期待される効果

- 1・同一テーマに対する共同研究による、日本における「民俗宗教」研究の議論を提議
- 2・教員の専門知識の共有化

- 3-1・未邦訳資料の紹介による当分野における先駆的立場の確立
- 3-2・学会での研究発表による独自性の提唱
- 4・各自の博士論文における国際的視座の形成
- 5・特徴的なフィールドにおける共同調査の実施による現状理解、理論検証および調査結果の共有による多方向の視点からの考察